

「土砂災害の恐ろしさ」

福井県 福井市足羽第一中学校 1年 清水<sup>しみず</sup> みそら

土砂災害の本当の恐ろしさを、私はまだ知らなかった。それは、実際に大きな土砂災害を経験したことがないからだろう。しかし、最近新聞で12面分の土砂災害の記事を目にした。そこには、「1000年に1度の土砂災害」と記されていた。それは、20年前に起きた福井豪雨の恐ろしさを訴える記事だった。私はその記事を読んで、土砂災害というものは、自分の身近なものだと感じた。

私は、福井豪雨の被害にあった祖父と祖母に話を聞いた。祖父母が住んでいるところは、「美山地区」という、山に囲まれた自然豊かな地域だ。その自然で美しい地域が、福井豪雨のときは、とても恐ろしいところになったと言う。

福井豪雨が起こったその日、祖父は福井の街中へ出かけていた。しかし、大雨の影響により、山が崩れて橋が崩壊し、家に帰れなかったそうだ。そして、美山で避難していた祖母と連絡が取れず、不安な日々を過ごしたそうだ。福井豪雨では、たくさんの人が大きな被害に遭い、大変な思いをした。しかし、勇気をくれたのは、復興を手伝ってくれたボランティアだったと祖父母は言う。夏休みだったこともあり、学生を中心に県内外から22000人を超えるボランティアが駆けつけてくれたそうだ。この話を聞いて、ボランティアという活動は、被災者を元気づけ、助ける素晴らしい活動だと思った。土砂災害が起こったときに、自分の存在が被災者の役に立つのなら、参加して困っている人を助けたいと強く興味を持った。

私は小学生の頃、土砂災害の避難訓練に参加したことがある。その避難訓練では、消防署の方に、避難するときに大切なことを教えていただいた。その中で私の心に残ったのは、「自助」という言葉だ。「自助」とは、自分の命は自分で守るという意味の言葉だ。私は、自分の命は自分で守れるように、普段から備えておくことの大切さを学んだ。避難しても、家族と離れ離れになってしまったら、しばらくは自分1人で生活していかなければならない。そのために、日頃から必要なものを準備したり、親に頼らなくてもできることを増やしたりしていきたい。

土砂災害というものは、必ず起きてしまうものだ。だから、土砂災害をなくすことはできない。しかし、土砂災害の被害を減らし、困っている人を助けることはできる。私は、そのために「情報」と「地域」が大切だと考えた。

1つ目の「情報」は、誰もが簡単に情報を受け取れる社会になることだ。最近は、スマートフォンなどが普及し、多くの人に情報が届くようになった。しかし、まだ全ての人に情報が早く届くようには、なっていない。全ての人に素早く情報が届けば、すぐに対策をとり、避難することができる。そして、被害を減らすことにつながると思う。地震などの災害は、予測することができないため、いつ起きるかわからない。しかし、土砂災害は予測することができる。そのため、ニュースや天気予報などを見ることで、被害を減らすためにできることがあると思う。

2つ目の「地域」は、深い地域のつながりをつくることだ。多くの人々の命を守るためには、地域のつながりが欠かせないと思う。地域の高齢者の方などとのつながりがあれば、緊急時一緒に避難することができる。しかし、避難が大変な方が、地域の人とつながりがなかったら、おいていかれてしまって避難できなくなってしまうかもしれない。このように、どの家にどのような方が住んでいるか知っているだけで、救える命が増えると思う。

土砂災害について聞いたことや調べたことをもとに、これから取り組もうと思ったことが3つある。

1つ目は、多くの情報に触れるということだ。ニュースや天気予報、新聞などをみることで、どこでどのようなことが起きているのかを知ることができる。その中には、自分の命を守ることにつながる内容もあると思う。また、被災想定区域や避難経路などを記したハザードマップを確認して、自分の安全につなげたい。

令和6年度 「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文中学生の部 優秀賞（事務次官賞）

2つ目は、地域のつながりをさらに深めるということだ。毎日元気なあいさつをしたり、地域の行事に積極的に参加したりして、地域の方とたくさん関わり、つながっていきたい。

3つ目は、土砂災害のことについて発信していくということだ。土砂災害の被害などを発信して、多くの人に土砂災害の恐ろしさを知ってもらいたい。

これからの私たちに必要なことは、必ず起きてしまう、恐ろしい土砂災害と向き合っていくことだ。そして、土砂災害から自分やたくさんの人々の命を守っていくことが、これからは生きていく私たちの使命だと思う。